

市がお知らせする避難情報

市は、避難情報を登米市メール配信サービス、緊急速報メール・エリアメール、緊急告知ラジオ、防災行政無線、ホームページなどでお知らせします。

市が発令する避難情報の種類	
名称	求める行動
避難準備・高齢者等避難開始	<ul style="list-style-type: none"> 避難に時間がかかる人(要配慮者)とその支援者は避難を開始。 その他の人は、避難の準備を整え、以後の防災気象情報、水位情報などに注意を払い、自発的に避難を開始。
避難勧告	<ul style="list-style-type: none"> 速やかに避難場所などへ避難。 避難場所へ避難することが命に危険が及ぶような場合は、近くの安全な場所や、建物内のより安全な場所に移動。
避難指示(緊急)	<ul style="list-style-type: none"> 避難していない人は、避難場所などへ緊急に避難する。 避難場所へ避難することが命に危険が及ぶような場合、近くの安全な場所や、建物内のより安全な場所に移動する。

※避難情報が発令された場合はもちろんのこと、発令される前でも危険を感じた場合は、適切な避難行動により身の安全を確保してください。

市メール配信サービスに登録を

登米市メール配信サービスに登録することで防災行政無線、緊急告知ラジオを聞き逃した場合も、情報を確認することができます。また、市外にいても避難情報を受け取ることができます。



防災、防犯、市の行事などを、登録されたメールアドレスに随時配信。パソコン、携帯電話、どちらでも登録可能です。

登録用URL: <https://mail.cous.jp/tomecity/>

想定される浸水の深さに応じた避難時の注意点

【想定浸水深】0.5m未満

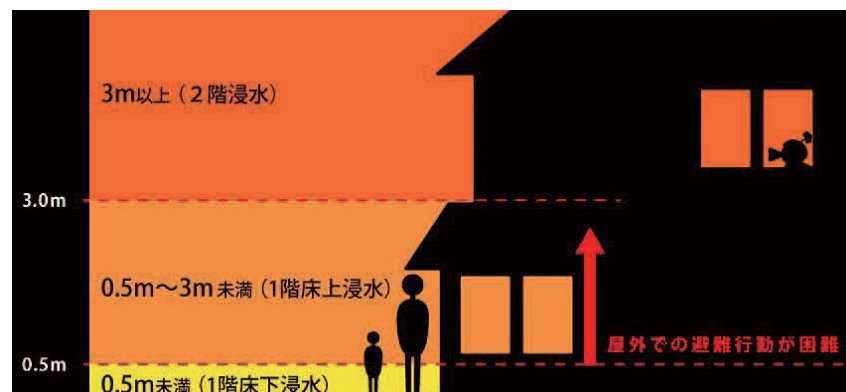
- ・浸水の深さが膝上になると、徒歩による避難は危険です。
- ・車での避難が危険な場合があります。
- ・避難が遅れた場合は、自宅などの上層階へ移動しましょう。
- ・マンションなどの高い建物に居住している場合は、無理に避難する必要はありません。ただし、浸水が長時間継続した場合や孤立した場合の問題点を確認しておく必要があります。

【想定浸水深】0.5～3m

- ・1階が床上浸水になり、避難が遅れると危険な状況になるため避難情報だけでなく、河川の水位情報などにも注意し、必ず避難所などの安全な場所に避難しましょう。
- ・浸水が始まってからの避難は非常に危険です。浸水が想定される場合は、近くの丈夫な建物の2階以上に移動しましょう。
- ・水、食べ物、貴重品などを持って、2階以上に上がりましょう。
- ・マンションなどの高い建物に居住している場合は、無理に避難する必要はありません。ただし、浸水が長時間継続した場合や孤立した場合の問題点を確認しておく必要があります。

【想定浸水深】3m以上

- ・2階床面が浸水し、避難が遅れると危険な状況になるため、避難情報だけでなく、河川の水位情報などにも注意し、必ず避難所などの安全な場所に避難しましょう。
- ・浸水が深く、水が引くまで時間がかかります。高い場所に居住している場合でも、事前に避難所などの安全な場所に避難しましょう。



※夜間に大雨が予想される時は、暗くなる前の避難がより安全です。
 ※浸水区域の外であったり、避難情報が出されていなくても危険を感じた場合は自発的に避難しましょう。
 ※近所に声掛けし、できるだけ2人以上で行動しましょう。

災害時は早めの避難行動
 堤防が決壊すると一気に水かさが増し、避難が困難になります。土砂災害はすさまじい破壊力を持ち、一瞬にして多くの人命や住宅などの財産を奪う恐ろしい災害です。
 市は、災害発生の恐れがある場合には、登米市メール配信サービスや緊急告知ラジオなどで避難情報をお知らせしますので、早めの避難行動をお願いします。
 また、避難情報が出ていなくても、危険を感じた場合は自発的に避難し、安全を確保して身を守りましょう。
 過去に経験したことのない災害が身近にも起こりうることを考え、日頃から備えておくことが重要です。

水害から命を守るために

— 自ら率先して危険を避ける行動を —



写真：2009年10月台風18号(津山町横山)

過去に経験のない災害が

今年7月に発生した「平成30年7月豪雨」。数十年に一度の重大な大雨になると予想される場合に気象庁から発表される「大雨特別警報」が11府県に発令され、72時間降水量は、22道府県の119地点で観測史上最大を更新しました。河川の氾濫や土砂災害が発生し、7月31日時点で、人的被害は死者220人、負傷者369人、行方不明者9人と、甚大な被害を及ぼし、平成になって最悪の大雨災害となりました。

被害者のほとんどが1階部分で被害に

平成30年7月豪雨により、岡山県倉敷市真備町地区では8カ所の堤防が決壊。短時間で水かさが増したため、多くの人が逃げ場を失い、自宅の1階で被災した(犠牲になった)とみられています。2階以上へ避難できれば、助かったケースも少なくありません。

もし堤防が決壊したら…

近くの堤防が決壊したら、皆さんの自宅、職場や大切な人の住まいは安全ですか。2

階以上に避難できますか。どこまで浸水するか想定できませんか。近くに避難できる丈夫な2階以上の建物はありますか。

今回の災害を教訓として、堤防が決壊した場合の安全確保について、市民一人一人が考えることが大切です。いざという時に身を守る行動ができるように、あらかじめ職場や家庭で、安全な避難について話し合っておきましょう。

ハザードマップの活用を

大雨による洪水の発生に備え、市では洪水ハザードマップを作成しました。今年4月に全戸配布し、市公式ホームページにも掲載しています。ハザードマップは、堤防が決壊した場合、浸水の恐れがある場所(浸水想定区域)を、浸水の深さに応じて色分けしています。また、避難時の心得、過去の水害情報、緊急連絡先や避難所などについても表示しています。

